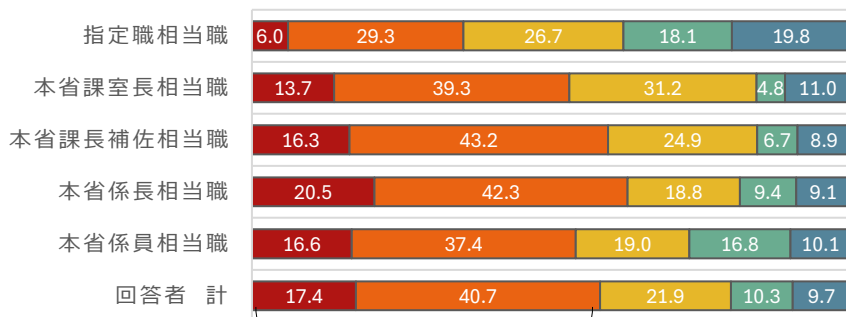


- テレワークを実施しづらいとする割合は本省・地方ともに減少し、全体として浸透が進んでいる一方で、特に若年層を中心に、実施しにくい職場の雰囲気が残っており、改善が引き続き必要。
- 本省では対面重視、地方では現場・紙業務の多さが課題であることから、オンライン活用や電子化の検討が重要。
- こういった点も踏まえ、引き続き、国家公務員のテレワークの推進に取り組む。

テレワークを実施しづらいと感じる時の有無

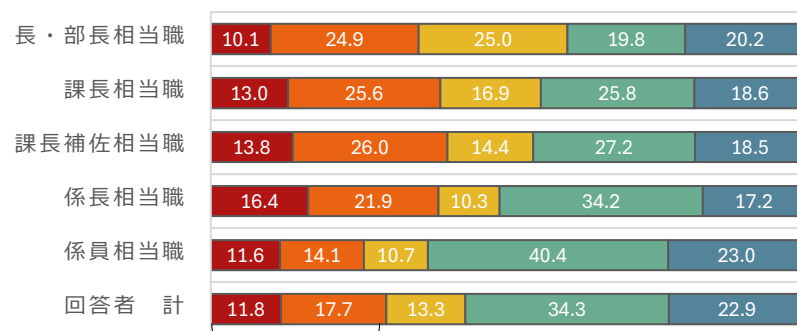
【本省】



58.1% (令和6年度：62.9%)

■ いつもある ■ 時々ある ■ 全くない ■ 業務の性質上テレワークを実施できない※ ■ 実施したいと思わないため分からない

【地方】

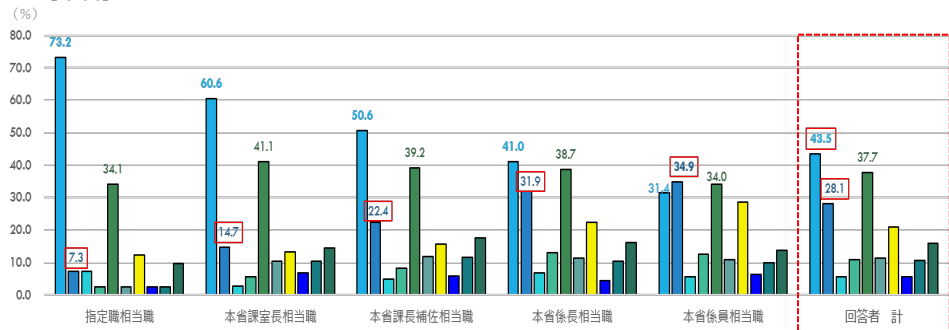


29.5% (令和6年度：33.2%)

※窓口業務・交替制勤務等に係る現場業務等

テレワークを実施しづらい原因

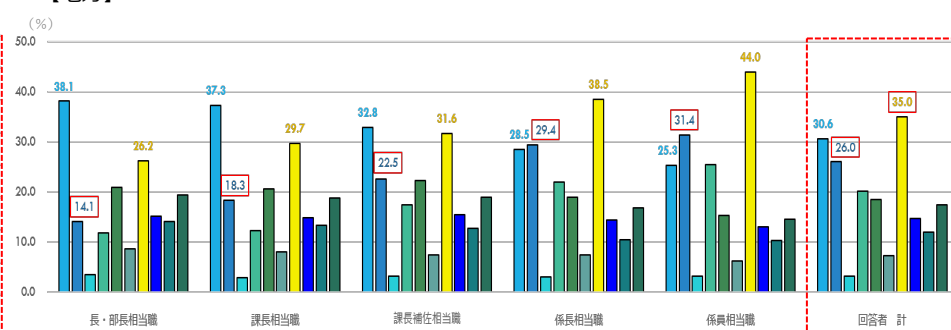
【本省】



■ 対面で説明を求められる機会が多い
■ 対面を実施しづらい雰囲気がある
■ 対面中に孤立感や疎外感を感じる

■ 特別な事情がないとテレワークできない
■ やりとりがチャットやメールなどテキストで時間がかかる
■ 電話やオンライン会議のタイミングが捉えづらい

【地方】



■ 紙処理の業務が多い
■ テレワーク向けPCやWEB会議などのツールが未整備
■ テレワーク環境（個室、机、椅子等）の自宅整備が困難

■ その他